

大起産業株式会社

(平成24年3月期)

1. 会社の概況

① 商号、許可年月日等

商号又は名称	大起産業株式会社
代表者名	代表取締役社長 田中 弘晃
所在地	名古屋市中区錦二丁目2番13号
電話番号	052-201-6311 (代)
許可年月日	平成22年12月28日
加入協会名	日本商品先物取引協会 日本商品委託者保護基金

会社の沿革

年月	概要
昭和25年8月	大起証券株式会社（その後合併により、内外証券株式会社となり、現在は東海東京証券株式会社）の関連会社（現在は関係解消）栄不動産株式会社として、名古屋市中区南伊勢町1丁目5番地に会社設立。資本金500万円。
昭和26年12月	商号を大起産業株式会社に変更し同時に事業目的も変更する。
昭和27年2月	名古屋繊維取引所会員加入。仲買人登録し受託業務を開始する。
昭和38年3月	本店を現在地に移転。
昭和45年5月	資本金 3,000万円に増資。
昭和46年1月	商品取引所法改正に基づき名古屋繊維取引所商品取引員として改めて許可される。
昭和51年1月	金沢支店開設。
昭和57年2月	東京金取引所会員加入。
昭和58年1月	大阪支店開設。
昭和59年4月	東京穀物商品取引所会員加入。
昭和59年6月	資本金 9,800万円に増資。
昭和59年10月	東京穀物商品取引所商品取引員許可。

昭和59年10月	東京支店開設。
昭和62年11月	東京工業品取引所商品取引員（綿糸・毛糸市場）許可。
平成2年12月	資本金3億5,000万円に増資。
平成3年8月	資本金5億3,000万円に増資。
平成3年9月	東京工業品取引所貴金属市場商品取引員許可。
平成6年7月	資本金6億3,000万円に増資。
平成8年1月	研修所（フューチャーズ・トレーニング・センター）開設。
平成11年6月	東京工業品取引所石油市場商品取引員許可。
平成15年9月	東京工業品取引所ゴム市場商品取引員許可。
平成17年4月	改正商品取引所法に基づき改めて商品取引受託業務の許可をされる。
平成21年6月	第二種金融商品取引業者の登録。
平成21年9月	取次取引員に業態変更。
平成22年12月	商品先物取引法に基づき、商品先物取引業者として許可される。
平成22年12月	社団法人金融先物取引業協会加入。
平成23年4月	取引所為替証拠金取引「くりっく365」の媒介業務を開始。
平成23年10月	大阪支店を奈良市に移転し、関西支店と名称変更。

(2) 事業の内容

(a) 商品先物取引業

イ. 国内商品市場取引に係る業務

当社は、商品先物取引法第 190 条第 1 項に基づき、農林水産大臣及び経済産業大臣より商品先物取引業の許可を得た商品先物取引業者であり、下記の商品市場において、ドットコモディティ株式会社を取り次ぎ先とした委託の取り次ぎ業務を行っております。（許可番号：農林水産省「指令 2 2 総合第 1 3 5 1 号」、経済産業省「平成 2 2 ・ 1 2 ・ 2 2 商第 6 号」）

なお、当社で取引できる商品は以下のとおりです。

取引所名	当社における取扱商品
(株)東京穀物商品取引所	コメ、とうもろこし、一般大豆、小豆、アラビカコーヒー生豆、粗糖
(株)東京工業品取引所	金、銀、白金、パラジウム、金ミニ取引、白金ミニ取引、ガソリン、灯油、原油、軽油、ゴム(RSS 3 号)

(注) 現在取引休止中の商品は表示しておりません。

ロ. 国内商品市場における取引を行う業務

自己の計算において商品市場における取引を行う業務であります。自己売買業務は、上記イに掲げた商品市場において行っております。

(b) 兼業業務

イ. 金融商品取引業務

第二種金融商品取引業者として、平成 23 年 4 月より、東京金融取引所の為替証拠金取引「くりっく 365」の媒介業務（媒介先：カネツ F X 証券株式会社）を行っております。

登録番号：東海財務局長（金商） 第 124 号

加入協会名：社団法人 金融先物取引業協会

③ 営業所の状況

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

店舗の名称	所在地	電話番号
本 社	愛知県名古屋市中区錦二丁目 2 番13号	052-201-6311
東京支店	東京都中央区日本橋久松町11番 6 号	03-3662-5411
関西支店	奈良市富雄北二丁目 2 番32号	0742-51-8381
金沢支店	石川県金沢市南町 4 番47号	076-223-1681

④ 財務の概要

決算年月 (平成 24 年 3 月決算期)

(a) 資本金	6 3 0 , 0 0 0 千円
(b) 営業収益	6 2 9 , 6 2 2 千円
(c) 受取手数料	6 4 8 , 5 3 3 千円
(d) トレーディング損益	△ 1 8 , 9 1 0 千円
(e) 経常損失	2 2 5 , 0 7 5 千円
(f) 当期純損失	2 7 8 , 4 5 2 千円
(g) 純資産額規制比率	6 8 9 . 5 %

⑤ 発行済株式総数

発行済株式の総数 9 , 0 6 8 , 1 5 0 株 (平成 24 年 3 月 31 日現在)

(注) 当社の株式は、非上場です。

⑥ 上位10名までの株主の氏名等

(平成24年3月31日現在)

氏名又は名称	保有株式数	割合
	(千株)	(%)
新井紀夫	1,778	19.6
大榮産業(株)	1,550	17.0
従業員持株会	714	7.8
加藤正治	544	6.0
(株)三清社	540	5.9
(株)東亜製作所	430	4.7
余語ミサ	279	3.0
木之村啓二郎	250	2.7
安部益美	235	2.6
(株)トーヨー	229	2.5
計	6,553	72.2

⑦ 役員状況

(平成24年3月31日現在)

役職名	氏名(生年月日)	代表権の有無	常勤・非常勤の別
取締役会長	新井紀夫(昭和16年4月3日)	無	常勤
代表取締役社長	田中弘晃(昭和26年8月18日)	有	常勤
取締役	加藤正治(昭和25年5月20日)	無	常勤
取締役	岡本藤太(昭和7年11月13日)	無	非常勤
取締役	武山栄造(昭和9年1月29日)	無	非常勤
常勤監査役	渡辺章二(昭和29年1月21日)	無	常勤
計	6名		

⑧ 役員及び使用人の状況

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

	役員		使用人	計
		うち非常勤		
総数	6名	2名	50名	56名
(うち外務員数)	(4名)	(0名)	(40名)	(44名)

2. 営業の状況

① 営業の経過及び成果

日本の経済環境や商品先物取引業界を取り巻く厳しい経営環境の下、当社は平成23年5月に新規開拓専従部門を廃止し、顧客管理部門の増強を図るなどの社内体制の改革を進め、効率化に努めてまいりましたが、当事業年度の業績は、総売買高171千枚で前期比65.7%減となり、受取手数料は6億48百万円と前期比31.0%減となりました。

他方、販売費及び一般管理費は、人員削減、店舗の縮小・移転や業務システムのアウトソース化など徹底したコスト削減への取り組みにより、前期比34.9%減の8億52百万円となりましたが、ディーリングが18百万円の損失となりましたため、営業損益は2億23百万円のマイナスとなりました。さらに営業外損益を加えた経常損失は2億25百万円となり、特別損失が52百万円となったため、税引前当期純損失は2億77百万円、当期純損失は2億78百万円となりました。

(1) 受取手数料部門

(a) 国内商品市場取引

6億4,484万円（売買高169,699枚）

(b) 外国商品市場取引

該当事項はありません

(c) 店頭商品デリバティブ取引

該当事項はありません

(2) トレーディング部門

(a) 国内商品市場取引

△1,891万円（売買高2,003千枚）

(b) 外国商品市場取引

該当事項はありません

(c) 店頭商品デリバティブ取引

該当事項はありません

(3) 外国為替証拠金取引の媒介部門（くりっく365）

受取手数料 368 万円（売買高 5,674 枚）

(注) 売買高には受渡しによる決済数量は含まれておりません。

②取引開始基準

1 次の各号に該当する「不相当と認められる勧誘対象者」に対しては、勧誘及び受託は行いません。

- (1) 未成年、成年被後見人、被保佐人、被補助人、精神障害者、知的障害者及び認知障害の認められる者
- (2) 長期入院等随時連絡がとれない者
- (3) 生活保護法による保護を受けている世帯に属する者
- (4) 破産者で復権を得ない者
- (5) 損失が生ずるおそれのある取引を望まない者
- (6) 取引証拠金等の額を上回る損失が生ずるおそれのある取引を望まない者に対する、取引証拠金等の額を上回る損失が生ずるおそれがある取引の勧誘
- (7) 商品デリバティブ取引をするための借入の勧誘
- (8) その他、商品先物取引を行う適格性に欠ける者

2 次の各号に該当する「不相当と認められるおそれのある勧誘の対象者」に対しては、原則として勧誘及び受託は行いません。

- (1) 年金、恩給、退職金、保険金等（以下「年金等」という）が収入全体の過半を占めている者
- (2) 年間500万円以上の収入を有しない者
- (3) 75歳以上の高齢者
- (4) デリバティブ取引の経験がない者

3 前項に掲げる者の内、以下の各号に掲げる「例外の要件」を具備していることの確認を得た場合には、勧誘及び受託を認めます。

- (1) 前項(1)及び(2)号については、申告投資可能資金額の裏付けとなる資産を有していること。但し、裏付けの資産について、顧客本人しか知り得ない具体的な資産情報を記載した申出書等の提出を得ること。
- (2) 前項(3)号については、「直近の過去3年以内に延べ90日以上」を目安とした商品デリバティブ取引又はこれと同様の外国為替証拠金取引や金融商品等の先物取引等のレバレッジがあると認められる取引の経験があると認められること、及び商品デリバティブ取引の仕組み・リスクその他説明を受けた事項を的確かつ十分に理解していることが取引相談室の直接面談による調査によって確認されていること。

(3) 前項(4)号については、直近3年以内90日以上の商品デリバティブ取引又はこれと同様の外国為替証拠金取引や金融商品等の先物取引等のレバレッジがあると認められる取引の経験がない者については、商品デリバティブ取引の仕組み・リスクその他説明を受けた事項を的確かつ十分に理解していることの証明を得ていること。

4 口座開設申込書において以下の各号に該当する顧客は、自己の責任と判断において良識ある取引を行う旨の書面を差し入れることを義務付けます。また、管理部は受託契約の締結に先立って顧客に対して電話又は面談により属性調査を行います。

(1) 銀行、農業・漁業等の協同組合、信用組合、信用金庫、郵便局などの金融機関において直接、間接に金銭、有価証券等の取扱いに係わる者

(2) 証券会社、保険会社、消費者金融、信販会社、クレジットカード会社、ファイナンス会社、リース会社などのノンバンクにおいて直接、間接に金銭、有価証券等の取扱いに係わる者

(3) 国・地方公共団体その他公益機関において直接、間接に金銭、有価証券等の取扱いに係わる者

(4) 民間企業等において直接、間接に金銭、有価証券等の取扱いに係わる者

(5) 前号にかかわらず当社が確認を必要と判断した者

5 第1項及び第2項に該当しない者であっても、総括管理責任者が商品先物取引を行うのに相応しくないと認めた者に対して受託は行いません。

以上

③ 顧客数 625名 (平成24年3月31日現在)

3. 経理の状況

① 貸借対照表

貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	2,246,580	流 動 負 債	2,421,737
現金及び預金	695,261	短期借入金	270,000
保管有価証券	293,162	1年以内償還社債	40,000
差入保証金	684,493	1年以内返済長期借入金	55,280
委託者先物取引差金	501,159	未払法人税等	1,030
委託者保護基金預託金	25,000	預り証拠金	1,963,131
その他の流動資産	47,503	賞与引当金	12,000
固 定 資 産	1,140,638	その他の流動負債	80,295
有形固定資産	865,700	固 定 負 債	457,156
建物	183,376	長期借入金	263,000
構築物	4,585	長期預り商品	74,276
器具及び備品	1,465	退職給付引当金	104,162
土地	676,271	役員退任慰労引当金	7,717
無形固定資産	111,960	長期預り保証金	8,000
のれん	52,976	特 別 法 上 の 準 備 金	20,342
ソフトウェア	42,961	商品取引責任準備金	20,342
電話加入権	16,021	負 債 合 計	2,899,236
投資その他の資産	162,977	純 資 産 の 部	
投資有価証券	56,701	株 主 資 本	487,982
出資金	205	資本金	630,000
長期貸付金	8,922	資本剰余金	35,789
長期前払費用	2,853	資本準備金	35,789
長期差入保証金	28,382	利益剰余金	△ 177,806
長期未収債権	99,774	利益準備金	122,000
その他の投資資産	45,646	その他利益剰余金	△ 299,806
貸倒引当金	△ 79,508	別途積立金	1,440,000
		繰越利益剰余金	△ 1,739,806
		純 資 産 合 計	487,982
資 産 合 計	3,387,218	負 債 純 資 産 合 計	3,387,218

② 損益計算書

損 益 計 算 書

自 平成23年 4月 1日
至 平成24年 3月 31日

(単位：千円)

科 目	金	額
営業収益		
受取手数料	648,533	
売買取損	△ 18,910	629,622
営業費用		
販売費及び一般管理費		852,778
営業損失		223,155
営業外収益		
受取利息及び配当金	3,628	
不動産賃貸収入	41,428	
その他の営業外収益	6,093	51,151
営業外費用		
支払利息	14,962	
不動産賃貸費用	10,265	
消費寄託費用	5,493	
貸倒引当金繰入額	21,400	
その他の営業外費用	950	53,071
経常損失		225,075
特別損失		
固定資産除却損	25,818	
投資有価証券売却損	3,230	
商品取引責任準備金繰入額	20,342	
貸倒引当金繰入額	2,750	52,141
税引前当期純損失		277,217
法人税、住民税及び事業税		1,235
当期純損失		278,452

③ 株主資本等変動計算書

株主資本等変動計算書

自 平成23年4月 1日

至 平成24年3月31日

(単位:千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
平成23年3月31日残高	630,000	35,789	35,789	122,000	1,440,000	△1,461,353	100,646	766,435
事業年度中の変動額								
当期純損失						△278,452	△278,452	△278,452
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)								
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	-	△278,452	△278,452	△278,452
平成24年3月31日残高	630,000	35,789	35,789	122,000	1,440,000	△1,739,806	△177,806	487,982

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成23年3月31日残高	△2,208	△2,208	764,227
事業年度中の変動額			
当期純損失			△278,452
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	2,208	2,208	2,208
事業年度中の変動額合計	2,208	2,208	△276,244
平成24年3月31日残高	0	0	487,982

④ 個別注記表

【継続企業の前提に関する注記】

当社は前事業年度に352百万円、当事業年度に225百万円と平成20年3月期以降5期連続で経常損失を計上いたしました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、人員削減、店舗の縮小・移転、業務システムのアウトソース化及び役員報酬・社員給与の見直しなど事業の再構築を進めてまいりました。

その結果、販売費及び一般管理費は前事業年度1,309百万円に対して、当事業年度は852百万円（前期比34.9%減）と大幅に削減することができました。翌事業年度におきましても、上記施策を継続することによりさらに一層の経費節減を進め、財務基盤の安定・強化を図ってまいります。

しかしながら、商品先物取引業界を取り巻く環境は先行き不透明な部分も存在するため、現状では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる状況にあります。

なお、計算書類等は継続企業を前提として作成しており、このような重要な不確実性の影響を計算書類等に反映しておりません。

【重要な会計方針に関する注記】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式	移動平均法による原価法
その他の有価証券	
時価のあるもの	期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの	移動平均法による原価法
保管有価証券	商品先物取引法施行規則第39条の規定により(株)日本商品清算機構が定めた充用価格によっており、主な有価証券の価格は次のとおりであります。
利付国債証券	額面金額の80%
社債（上場銘柄）	額面金額の80%
株券（一部上場銘柄）	時価の70%相当額
倉荷証券	時価の70%相当額

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法
なお、主な科目の耐用年数は次のとおりであります。

建 物	8～47年
構築物	10～30年
器具及び備品	4～20年

- (2) 無形固定資産 定額法
(3) 長期前払費用 定額法

4. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 従業員の退職金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額（簡便法による期末自己都合要支給額の100%）に基づき計上しております。
- (4) 役員退任慰労引当金 役員の退任慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- (5) 商品取引事故引当金 商品取引事故による損失に備えるため、商品先物取引法第 221条の規定に基づく「商品取引責任準備金」の他、顧客よりの損害賠償請求に伴う損失見積額を計上しております。なお、当事業年度末残高はありません。
- (6) 商品取引責任準備金 商品取引事故による損失に備えるため、商品先物取引法第 221条の規定に定めるところによる積立限度額を計上しております。

5. 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

【 追加情報 】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【 貸借対照表に関する注記 】

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保資産

(担保資産の内訳)

定期預金	590,000	千円
建 物	174,170	
構 築 物	4,585	
土 地	675,806	
計	1,444,562	

(対応する債務の内訳)

商品先物取引法第 179条第 7 項の規定に基づく 銀行の預託の委託契約極度額に対する求償債務	510,000	千円
--	---------	----

(担保資産の内訳)

投資有価証券	6,750	千円
--------	-------	----

(対応する債務の内訳)

カネツ商事株式会社との貴金属消費寄託契約に 基づく返還債務	74,276	千円
----------------------------------	--------	----

(担保資産の内訳)

投資有価証券	5,724	千円
--------	-------	----

(対応する債務の内訳)

北辰物産株式会社との社債引受契約に基づく償 還債務	20,000	千円
------------------------------	--------	----

(担保資産の内訳)

投資有価証券	21,460	千円
--------	--------	----

(対応する債務の内訳)

大榮産業株式会社との社債引受契約に基づく償 還債務	20,000	千円
------------------------------	--------	----

(2) 預託資産

商品先物取引法等関係法令により預託すべき取引証拠金の代用として、ドットコムディティ株式会社へ預託している資産は次のとおりであります。

保管有価証券	293,162	千円
差入保証金	684,493	
計	977,655	

(3) 分離保管資産

商品先物取引法第 210条の規定に基づき、日本商品委託者保護基金に分離保管しなければならない保全対象財産は、2,473千円であります。

なお、同法施行規則第98条の規定に基づく、委託者資産保全措置額は50,000千円であります。

2. 有形固定資産の減価償却累計額	329,109 千円
3. 関係会社に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債務	30,000 千円

【 損益計算書に関する注記 】

関係会社との取引高	
営業取引以外の取引による取引高	269 千円

【 株主資本等変動計算書に関する注記 】

発行済株式の種類及び総数

発行済株式の種類	当事業年度末株式数
普通株式	9,068,150 株

【 税効果会計に関する注記 】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

貸倒引当金	26,774 千円
賞与引当金	4,525
退職給付引当金	37,422
役員退任慰労引当金	2,726
商品取引責任準備金	7,187
欠損金	474,199
投資有価証券	2,681
その他	685
繰延税金資産小計	556,201
評価性引当額	△ 556,201
繰延税金資産合計	0

【 退職給付に関する注記 】

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

また、この他に複数事業主制度による総合設立型の厚生年金基金に加盟しております。

2. 退職給付債務及びその内訳（平成24年3月31日現在）

退職給付債務	104,162 千円
退職給付引当金	104,162

3. 退職給付費用の内訳

勤務費用	19,932	千円
掛金	22,397	
退職給付費用	42,330	

4. 退職給付債務の計算方法

簡便法（期末時点の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）を採用しております。

【 金融商品に関する注記 】

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行借入等による方針であります。

借入金等の使途は運転資金（主として短期）および設備投資資金（長期）であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日（当期の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	695,261	695,261	—
(2) 差入保証金	684,493	684,493	—
(3) 委託者先物取引差金	501,159	501,159	—
(4) 長期未収債権	99,774		
貸倒引当金	<u>△ 79,508</u>		
	20,266	20,266	—
(5) 短期借入金	(270,000)	(270,000)	—
(6) 預り証拠金	(1,963,131)	(1,963,131)	—
(7) 社 債	(40,000)	(40,000)	—
(8) 長期借入金	(318,280)	(313,949)	4,330

(*)負債に計上されているものについては、()で示しております。

1年以内償還社債及び1年以内返済予定長期借入金については、それぞれ社債及び長期借入金に含めて記載しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2) 差入保証金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 委託者先物取引差金

委託者の先物取引について、商品取引所の価格によっております。

(4) 長期未収債権

委託者に対する長期未収債権について、個別に回収可能性を検討した回収可能見

込額によっております。

(5) 短期借入金、並びに(6) 預り証拠金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 社債

社債の時価については、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いて算出する方法によっております。

(8) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

2. 非上場株式（貸借対照表計上額56,701千円）は、市場価格がなく、かつ将来、キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記表には記載しておりません。

3. 長期預り商品（貸借対照表計上額74,276千円）は、返還期限が延長可能なため、将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記表には記載しておりません。

【 賃貸等不動産に関する注記 】

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、神奈川県その他の地域において、賃貸用の寮（土地を含む。）を有しております。平成24年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は、31,163千円（賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上）であります。なお、減損損失は、発生しておりません。

2. 賃貸不動産の時価等に関する事項

（単位：千円）

貸借対照表計上額	時 価
471,752	386,567

(注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当期末の時価は、主として「固定資産税評価額」に基づいて合理的な方法で算定した金額であります。

【 資産除去債務に関する注記 】

当社は、本社及び支店オフィスの不動産賃貸借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来本社及び支店を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

【関連当事者との取引に関する注記】

役員及び個人主要株主等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主（個人）及びその近親者	新井紀夫	当社取締役会長	被所有直接19.6%	担保の被提供	当社貴金属消費寄託契約に基づく返還債務に対する株式の担保の被提供	74,276	—	—

(注)当社は、カネツ商事株式会社との貴金属消費寄託契約に基づく返還債務に対して、取締役会長新井紀夫より株式の担保提供を受けております。なお、保証料の支払いは行っておりません。

【 1株当たり情報に関する注記 】

1株当たり純資産額	53円81銭
1株当たり当期純損失	30円70銭

⑤ 監査に関する事項

このディスクロージャー資料のうち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表については、会社法に基づき会計監査人の監査を受けております。